

## 「ツマグロヒョウモンの羽化」(3年)

6月25日にサナギになったツマグロヒョウモンが、今日の朝羽化しました。サナギの色がだいぶ黒くなって、羽化が近づいたので、蝶がとまりやすいように、昨夜割りばしの下にぶらさげておいたのです。残念ながら、羽化の瞬間は見逃しましたが、サナギにとまっている様子や、羽をパタパタ開く様子を、子どもたちと観察することができました。



「羽化して30分後のツマグロヒョウモン」

今日は雨だったのですが、室内で羽化したので羽が乾くのが速く、私が発見した時はすっかりきれいに展翅していました。それにしても、こんなに小さいサナギの中に、どうやって入っていたのでしょうか？究極の「折りたたみ術」ですね。ツマグロヒョウモンは雌雄で羽の模様が大きくちがいます。これはオスの個体です。

私はそーっつと低学年教室のワークスペース（オープンスペースの一種）に持っていき、パーティション（可動式仕切壁）の端に「展示」しておきました。しかし、色がパーティションの枠と似ていて保護色になってしまい、子どもたちはなかなか気づきません。仕方なく、張り紙をしておきました。子どもという人種は、すぐに「人だかり」をつくるという物理法則があります。あっという間に30人以上の子どもたちに囲まれてしまいました。ちょうど羽を乾かす動作をしていて、時々パタパタ羽を広げるので、表側の鮮やかな羽色と豹紋（ひょうもん）が見えて、歓声があがっていました。

**【子どもたちの反応】**

「アゲハよりもちっちゃくて（小さくて）かわいい！」

「羽の色がきれい！開くと赤いんだよ！」

「先生、マグロどこにいるの？」（ツマグロのマグロを魚だと思っている。）

「幼虫はキモい（気持ち悪い）のに、ちょうちょはかわいい！」

「逃がさないの？花のみつあげなくていいの？」

その後蝶は、教室の中を飛んで、1組のカーテンにとまっていました。私はそっつつかまえて、ベランダのグリーンカーテン（ニガウリ）の葉の上に置いてやりました。風を感じたのか羽を開いて、鮮やかな羽の表側を見せてくれました。

ツマグロヒョウモンは「袷黒豹紋」という意味です。「袷」とは、和服の裾のことです。開いた羽（表側）の下縁が黒いので「袷黒」なのです。相撲の珍しい決まり手に「袷取り」というのがあります。相手の足首をすくいあげる技です。ヒョウモンチョウは種類が多いのですが、ツマグロヒョウモンはこの黒い帯で、飛んでいても容易に見分けがつかます。

「豹紋」のほうは、まさに豹（ヒョウ）の柄ということです。短い語彙の組み合わせで、実に蝶の特徴をよく表現した、すばらしい和名ですね。



### 「羽を開いたツマグロヒョウモン」

鮮やかなパーマネントオレンジ。豹紋は、驚くほど左右対称とわかります。まるで左右の羽を「転写」したようです。

給食の時間に、蝶は霧雨の中を、校庭に飛んでゆきました。幼虫から見てきた蝶が無事に自然に帰ってゆく瞬間は、いつでも嬉しくて、ちょっと淋しいですね・・・。

(お茶の水女子大学附属小学校 理科部 田中 千尋)